

平成25年度小・中学校理科教育ステップUP!プラン事業

「小学校理科校内研修支援事業」

実施報告

浦河町立浦河小学校

*学級数 10 *児童数 158

支援員勤務学校名	職名	氏名	専門分野
北海道浦河高等学校	教諭	石川大朗	化学

【本事業のねらい】

小学校第5学年「物の溶け方」、第6学年「水溶液の性質」の単元において、「身の回りにある果物や野菜などを利用して水溶液の性質を調べる方法」について、児童に観察、実験の具体的な体験を通して理解させる教員の指導力向上を目的に実施した。

【実施内容】

12月6日14:40～16:00、浦河小学校理科室において、18名の教員を対象に、小学校第5学年「物の溶け方」、第6学年「水溶液の性質」の単元目標と学習内容、指導上の留意事項を確認した後、「シュリーレン現象」の観察や「紫キャベツを使った水溶液の仲間分け」の実験を行った。



<実験の様子>

【本事業での主な参加者の声】（アンケート記述から一部抜粋）

- ・「物の溶け方」の実験では、シュリーレン現象を観察させる際に、傘袋が非常に有効であることが実感として捉えられました。実際の授業で使ってみたいと思います。
- ・どの実験も楽しくできました。特に塩化アンモニウムの再結晶の実験は、星形の結晶が見られ、新鮮でした。ぜひ、授業で子どもたちに見せたいと思います。
- ・塩化アンモニウムは、温度による溶解度の差が大きいことから、再結晶の実験に適していることが実感として捉えられました。温度による溶解度の差が小さい食塩と比較させてみたいと思います。
- ・水溶液の性質を調べる実験では、冷凍することにより煮出す必要がないことや保存がきくことなどから、紫キャベツを使用すると便利であることが分かりました。

【来年度以降の実施に向けて】

今回、教員が児童の立場に立って研修できたことは、今後、授業を行う際の参考となったと考える。